

ChatGPT への挑戦 ブッダガヤの菩提樹に関する論争



那覇市医師会 長嶺 信夫
(e-mail : nagamine1128@yahoo.co.jp)

1. はじめに

この3年、続けてインドを訪問した。昨年はブッダガヤの大菩提寺境内で菩提樹の実を拾い、我が家で蒔いたところ発芽し、実生苗を金城実氏に贈呈した。

この機会に「金剛法座」前の菩提樹の由来について ChatGPT（以下 GPT と略す）と論争を試みた。面白いことに、論争を終えてみると、GPT の当初の結論が変更されたのである。

2. ブッダガヤの菩提樹の由来について質問してみた

筆者（以下 N）：「ブッダガヤのマハーボディ寺院境内に生えている菩提樹は釈迦成道の菩提樹の直系の樹ですか？」

GPT：「結論から言うと、現在のマハーボディ寺院の菩提樹は釈迦が悟りを開いた当時の木そのものではありませんが、系譜的には「直系（クローン系的後継）」と考えられている木です」

■なぜ「同じ木ではない」のか

ブッダが悟りを開いた元の菩提樹は、紀元前3世紀以降に何度も破壊や枯れ死の危機にあります。特に有名なのはアショーカ王の妃による伐採や後の時代の政治的、宗教的対立による損傷です。

■では現在の木は何か？

現在の菩提樹は、元の木の子孫（挿し木・分枝などによる再生）とされています。

特に重要なのがスリランカとの関係です。

- ・アショーカ王の娘、サンガミッタがインドの菩提樹の枝をスリランカへ移植

- ・それが現在のスリ・マハー菩提樹として現存
- ・インド側の菩提樹が失われた際、この系統から再移植された可能性が高いとされています。

■まとめ

- ・現在の木＝当時の木そのものではない。
 - ・しかし＝同じ遺伝的系統を引く「直系の後継樹」と考えられている。
- つまりイメージとしては「何代も続く同じ家系の木」であり、宗教的にはほぼ同一の聖樹として扱われています。



ブッダガヤの菩提樹の実生苗を平和運動家・金城実氏に贈呈
2026年1月6日撮影

3. N:「スリランカのスリ・マハー菩提樹からブッダガヤに再移植された証拠はありますか？」

GPT: 結論から言うと、スリ・マハー菩提樹からマハーボディ寺院へ再移植されたことを裏付ける確実な歴史的証拠（同時代資料・考古学的証明）はありません。

- 1. 文献上の状況（決定的証拠はない）
- 2. それでも「再移植説」が有力な理由

- 1) ブッダガヤの菩提樹が何度も失われた。
- 2) 正統な系譜はスリランカにしか残っていない。
- 3) 中世以降の仏教再興と国際交流

ブッダガヤは一時衰退後スリランカやビルマなど仏教国が復興に関与した。この過程で「菩提樹が再導入された可能性」が指摘されています。

■ 3. 学術的評価

現代の歴史学・仏教学では次のように整理されます。

- ・スリランカ由来である可能性が高い(状況証拠)
 - ・しかし直接証明する一次資料はない
- つまり「有力仮説だが証明された事実ではない」

■ 4. 宗教的理解との違い

■ 5. まとめ

- 1) 再移植の直接証拠はない
- 2) しかし、系譜的に最も自然、歴史状況とも整合

*「可能性が高いが、未証明」というのが現在の学術的立場です。

4. 秘蔵文献提示で N 完勝！

N:「イギリスの考古学者カニンガムがブッダガヤの発掘調査をした時、そこに生えていた菩提樹は1876年に嵐によって倒れ、枯れたと記載している。また12世紀末から13世紀初頭にかけてイスラム教徒の侵攻後ブッダガヤが発掘調査された19世紀末まで菩提樹がどのようになっていたか不明と記載され、発掘調査をしたカニンガムの調査報告書にも菩提樹が枯れたあと、菩提樹がスリランカから再移植されたとの記載はない。

また1894年にスリランカのスリ・マハー菩提寺を訪問した土宜法龍が「木母堂全集」の記載の中に「ブッダガヤの菩提樹はサンカラチャーリー等の難を経たる新樹なり。故に到りて、其の根本には遠し」と記載している。スリランカから再移植されたとの記載はない」

GPT: 御指摘の内容はかなり重要な史料批判のポイントを突いています。結論から言うと、あなたが挙げているような資料状況からは、*「スリランカから再移植された」と断定する根拠はやはり存在しない。
*むしろ資料的には「不明」または「別系統の可能性」も十分ある。
という評価になります。



ブッダガヤ大菩提寺の金剛法座と菩提樹
2023年11月25日撮影



インド・サールナートのムラガンダ・クティ寺院菩提樹の前で
2025年2月22日撮影

■ 1. アレキサンダー・カニンガムの調査記録の意味

カニンガムは19世紀にマハーボディ寺院を発掘調査していますが、

- ・菩提樹が1876年の嵐で倒木・枯れ死したことは記載されている。
- ・しかしその後「どこから再植されたか」は記載していない。

これは非常に重要で、もしスリランカから公式移植があれば、記録される可能性が高い。にもかかわらず、それが無いという点は強い消極的証拠です。

■ 2. 中世～近代の「空白期間」

あなたの指摘通り

- ・12～13世紀（イスラム勢力の侵攻以降）19世紀の発掘まで、この期間の菩提樹の状態はほぼ空白

この空白は学術的によく知られており、

- ・自主的に再生したのか
- ・近隣から移植されたのか
- ・あるいは何度も断絶したのか

*連続性は証明されない。

■ 3. 土宜法龍の記述の意味

「木母堂全集」の「新樹なり。故に到りて、その根本には遠し」という記述はかなり率直で、当時すでに「原木から遠い別系統の木」という認識があったことを示しています。

さらに重要なのは、スリランカ（スリ・マハー菩提樹）を訪れているにもかかわらず、再移植に言及していない。これは、少なくとも、19世紀末時点で一般的な理解ではなかった可能性を示唆します。

■ 4. 学術的に見た整理

あなたの提示した資料を踏まえると、整理はこうなります。

確実に言えること

- *ブッダガヤの菩提樹は何度も断絶している。
- 19世紀の木は比較的新しい個体、系譜の連続性は資料では追えない。

言えないこと

- *スリランカから再移植されたという直接証拠、現在の木が初代の直系であるという証明

5. 結論

あなたの指摘はかなり核心的です。

- ・現在の研究水準では、スリランカ再移植説は証明されていない。むしろ史料的には裏付けが乏しい。

したがって厳密には「ブッダガヤの現在の菩提樹の系譜は不明」とするのが学術的に正確な立場です。

- *N注：当初、ブッダガヤの菩提樹は系譜的に「直系（クローンの後継）と考えられる」とのChatGPTの結論であったが、論争の後、上記の結論に変更されている。今後の菩提樹研究において有力な学説になることでしょう。

(2026年3月記)

文献

1. 長嶺信夫：古文書にみる「聖なる菩提樹」の歴史 沖縄医報 44(2):110-112, 44(3):96-99,2008
2. 長嶺信夫：ブッダガヤの菩提樹で新たにわかったこと～古文書にみる「聖なる菩提樹」の歴史～補遺 沖縄医報 44 (12) :108-109, 2008